

南区の子育て支援

ボランティア団体

特集!!



今回のセンターだよりは、子育て支援ボランティア団体大特集!!

出生数の減少は日本全国おしなべての様相であります。昨今の南区も同様、ここ10年(平成25~令和4年)で減少した出生数は90名。危機感を抱くのは行政だけではなくありません。地域住民にとっても、なにともし心細い...

そこで今回のボランティア・市民活動センターだよりでは、南区で子育て支援に尽力しているボランティア団体を紹介。若きママとパパには心強い味方が付いていることを、お知らせしたいと思います!



昭和もりもり食堂

スタートは平成29年

昭和もりもり食堂は、今から8年前の平成29年の冬休みにスタートしました。東区に新潟初の子ども食堂ができてから2年目のことです。

子ども食堂という子どもの居場所があることは、少しずつ世の中に知られていきましたが、南区にはまだ存在してなかったんです。当時の区長、渡辺稔さんの「南区にもひとつ、子ども食堂があればいいんだけど、どう?」という提案を受けて、ライオンズでやってみようかとスタートしました。

初めての試みだったので毎月1回はハードルが高すぎる。春・夏・冬の長期休暇に開催するくらいの頻度なら大丈夫じゃないかと、年に3回の開催としました。最初は会員の経営している老舗の割烹を会場に開催したんですが、参加者は子ども10人くらい、逆に近隣のご年配の方が十数人と多くて、スタッフを入れても全部で30人いままです。まだ子ども食堂の認知度が低かったからかもしれません。

子ども食堂の会場が割烹というのめいかなものか、という反省があつて、次回からは南区の公民館とか地域生活センターを会場にしようということになり、庄瀬、鷺巻、白井、大通と、南区のいろいろな地域に出向いて開催しました。

ちょうど女性会員を増やしていこうという時期だったこともあって、子ども食堂を運営する部門として女性会員5名で支部組織を作りました。ライオンズってどちらかというと男性で社長さんで、っていうイメージが強いと思うんですけど、今やどこの社会奉仕団体に比べても、白根ライオンズは女性会員が活躍していると自負しています。



インタビューに答えてくれた丸山澄江(まるやますみえ)さん

この情報紙は新潟市からの補助金を受けて発行しています



今年は白根地域生活センターで開催

コロナ禍が 転機

始めたばかりの頃は参加者が少ないのが悩みでした。全国に一万箇所も子ども食堂ができた今は、もう貧しい家の子が行くところみたいな感覚は少なくなっ

たと思うけれど、やっぱり当時はそう思う人も多かったんだと思います。でも迎える側の我々は最初からそういう先入観は全然なくて、「子ども食堂? いいね! やろう、やろう」って男性会員の協力体制もバッチリでした。一応、名前も子どもを前面に出さずに「もりもり食堂」にしてね。もりもり元氣な感じで!

コロナ禍明けに白根の町中のレンタルスペースを会場にしてお弁当のテイクアウトを始めたら、お年寄りやご近所さんが来てくれるようになりました。我先に! って感じで、近所のお年寄りがドドツと。この頃から参加者が70人とか80人とか、増えてきました。

毎年7月に新会長が決まるので、そのタイミングで年間スケジュールを立てます。3回分の開催日を決めてしまつて、その後は当日3か月前の定

例会で協賛や寄付をしてくれる企業・お店について情報共有や調整をします。

抜群のチームワークに♪

子ども食堂を開催するための助成金の申請は、結果がどうであれ出すようにしています。ちゃんと活動しているわけだし、それを子どもたちに還元できるのだから。継続は力なりですし。

メニューはカレーのみと一貫しているんだけど、何回も回を重ねてやっていると、会員からいろいろアイデアが出てきて、中辛があつたほうがいいとか、辛口も必要だとか。最初は甘口だけだったのが今では3種類、おかげさまで好評です。

子ども食堂運営支部のリーダーは刈谷敏恵さんです。最初は保険を掛けるのも、ポスター配布に回るのも、前日の買い物の割り当てでも、全部私(丸山)がやっていたんだけど、それでは大変だつて、今や彼女が担ってくれています。

経験を重ねていくことにみんなが成長して、ぐん



リーダーの刈谷さんが盛っております

ぐんチームワークが良くなつてきましたね。嫌々やつてないから、楽しい。汗だくになつちゃうんで大変なんだけど、終わったあとは「やったあー!」という感じ。開催日の夜は「大人食堂」と称して恒例の反省会がありまして、これがまた楽しいのです(笑)。

ああ!! 頑張つて良かった

去年と一昨年に、味方の「天杜くみんなの杜」が会場だったとき、流しそめんをやったんです。当日、竹を切つてきて割つてというところから始めて、子どもたちは自分が作つた箸でそめんをつかまったり、ノコギリの使い方を教えてもらつて蕎麦猪口を作つたりして、すごく楽しいつて喜んでました。ライオンズの会員には庭師さんもお大工さんもおられるから、竹の細工を指導する先生には事欠かない(笑)。

子ども食堂をやつて良かったなと思うのは、やっぱり「おいしかったです!」とか「たのしかったです!」とか、「またいつやるか教えてね!」つて言つて帰っていく子どもたちの顔を見ると、ああ頑張つて良かったなと思う、すごく。

今後は白根高校の学生さんにも、夏休みの宿題のお手伝いとか、自由研究お助け隊とか、ボランティアとして関わってもらえたらいいなと思っています。開催会場のご近所の方の中で、当日だけならお手伝いいただけるよと言つてくださる方がいれば大歓迎! 待つてま〜す! !

白根ライオンズクラブ



開催日: 春、夏、冬休みの1日間
参加費: こども無料おとな300円
場所: 主に白根地域生活センター
連絡先: 372-6088(ライオンズ事務局)

これはいけそうだ！

「もぐ」のことは、1年生になった上の子が小学校でもらってきたチラシで知りました。今から子ども食堂が始まりますよって書いてあった。教育と食育とみたいなコンセプトが立ち上がっていて、誘い文句が素敵なチラシでした。

すぐに電話してボランティアにエントリーしました。第1回目のプレオープンの時から参加しています。子ども食堂が何をするところなのか、その存在自体も知らなかったんですが、子どもたちが集まって来て、そこで宿題のサポートしてあげたり、手作りのごはんと一緒に食べたりというコンセプトに共感したんです。これはいけそうだ！まるで自分のために立ち上がった活動だ、みたいな感じ(笑)。

工作教室の師匠です

参加して1年目のクリスマスの時に、ごはん前のフリータイムイベントの時間で工作教室をやってくれないかって言われて、3カ月に1度くらいの割合で工作教室の先生をしていて「師匠」って呼ばれてます。

メタルフレームにビーズを入



れアイロンで熱加工して葉を作ったり、透明の紙コップで風鈴を作ったり。手持ちの材料や安価な素材で、子どもが楽しめる工作を考えています。工作を教えたことなんてなかったけど、娘たちとよく遊んでいるので、その経験を生かしています。

工作教室は子どもたちと一緒に失敗するためをやっているようなところがあって、子どもたちがどう作ろうか考える余地を持たせているんです。できあがりがいけないじゃなくてOK。子どもたちが試してみたいと思うことは、危険なこと以外は一切否定しないようにしています。師匠の作品は綺麗じゃないと「すげー」って言うってもらえないから、整えますが。子どもたちが作るものは、全部すてきなと思うちゃう。

みんな成功するのがいいと思っているし、僕もそういう教育を受けてきたのでそう思い込んでいますが、成長するためにはやっぱり失敗して、なんで失敗したか考えて、またトライしてっていうことが必要。なんなら「やめた」でもいいと思う。

研究者からWebコンサルタントに

出身は新潟市です。大学と大学院で有機化学を専攻して、卒業後は神奈川県にある企業の研究所に研究者として勤務していました。そこで結婚したんですが、仕事が結構ハードだったんですよ。神奈川県から九州に日帰り出張で朝5時に家を出て、夜10時に帰宅みたいなことが、しょっちゅうで。1人目の子どもが生まれたころも、家にいる時間が全然なかった。このままだと、ハタ

と気づいたら子どもが結婚しちゃった、みたいなことになりかねないぞ。せつかく生まれてきてくれたんだから、ちゃんと子どもを育てたいと思うて、会社を辞めて独立することを奥さんに了解してもらいました。

常々、富士山の見えるところで子どもを育てたいと思っていたので、静岡県の富士市に引っ越して、ウェブメディアを制作する自営業を始めました。富士山の麓での子育ても満喫し、長女が小学校に上がるタイミングで、生まれ故郷の新潟にUターン移住しました。大通に居を構え、現在は



5月のフリータイムイベントはカブラ♪



ぞくぞくとおかわりに並びます

戦とか有名なお祭りもあるし。大通で新潟を楽しんでいるって感じです。

料理がすごく面白い！

最初エントリーした時は、調理のボランティアがやりたかったんです。科学の業界は料理好きな人がわりと多くて、料理が上手な人は実験も上手っていうのが定石なんです。外側はサクサクで中はふんわりとか、味のバランスとか、設計しなきゃいけないところは科学と通じるところがあるのかなとか。

「もぐ」の調理ボランティアさんには、食推さんみれば有名ホテルの元シェフもいて、みなさん本当にすご腕なんです。例えば玉ねぎをあめ色に炒めるときにシェフが鍋を振るんですけど、あれは玉ねぎを裏返したいんじゃないんですよ、おそらく。めっちゃくちゃ熱くなっているフライパンの側面に、玉ねぎを短時間ジャッと当てる。そ

うすると早く香ばしく仕上がるらしい、とか。

ニラのスープもベースは中華スープでこれだけでも美味しいのですが、さらに鶏の皮を細かく刻んで入れたり。「もぐ」のキッチンでは美味しくするための工夫がいっぱいなんです。材料から調理方法まで、作った味をお家でも再現できるので、公開されるレシピが待ち遠しいんです。

子ども食堂の機能

子どもの教育ってやっぱり学校だけでは足りないと思うんですね。親とか学校の先生以外に、いろんな大人たち、やさしい人、面白い人、変わってる人、こんな風になりたいなと思える人、そういう大人に出会うことができる。それが子ども食堂の大事な機能のひとつだと思います。

今「もぐ」に来る子どもは小学校4年生ぐらいが多いのだけど、みんな少しずつ大きくなっていくので、工作の内容もそれに合わせて、いろんな年代の子が楽しめるように準備をしたいと思っています。料理の奥義もすごく気になりますが、今は工作の師匠を頑張ります！



大通子ども食堂運営委員会

開催日：毎月第4金曜日
参加費：こども100円 大人300円
場所：大通地域生活センター
連絡先：090-5508-5441(渡辺)

南区社協登録ボランティア団体【子育て支援編】

No.	団体名	活動内容
1	大通子ども食堂運営委員会	大通こども食堂もぐの運営
2	おもちゃ病院新潟みなみ	壊れて動かなくなった子どものおもちゃを無償で診察・修理する
3	きたもんクラブ	白根北児童館の活動サポート、地域の子育てを応援
4	子育て安心ささえ隊3739	子育て応援イベントの企画、開催・児童センター等の行事のお手伝い、花植え
5	子育てサロン OHANA	子育てに関わる方と乳幼児への支援、ひろば運営、妊婦さん向けの支援
6	白根ライオンズクラブ	春、夏、冬休み等長期休み時の子ども食堂開催、南区の中学校での薬物防止活動等
7	白根ロータリークラブ	子育て支援など地域社会への貢献とポリオ撲滅等国際的な平和構築
8	フードバンクにいがた南	ひとり親世帯の食支援(フードパントリーやフードドライブ活動)、親子食堂の開催
9	ボランティアサークルふおう♥はあと	世代間交流イベントの開催、絵本読み聞かせ等

おもちゃ病院新潟みなみ

壊れて動かなくなったおもちゃを無償で診察・修理するおもちゃの病院を開設しています。プラレールやラジコンカー、おままごセットなどいろんなおもちゃを直します。スイッチやモーターなど部品交換した場合は要実費(100〜500円程度)。壊れたおもちゃを捨てる前に一度ご来院ください。おもちゃドクター募集中！直接会場へ。



おもちゃ病院
みなみ
開館日 第2日曜日
時間 午後1時〜3時
場 白根学園
住所 新潟県白根市白根1-1-1
TEL 090-5508-5441

白根ロータリークラブ子ども農園

共感して始まった

昨年の7月から1年間、臼井の大矢組の大矢昭弘さんが会長を、私が幹事を務めました。世界や全国のロータリークラブは世界平和やポリオ撲滅など大きな目標に取り組んでいます。ふたりとも民生委員児童委員をしていることもあって、地域のことが気にかかるんですね。地元で地域に奉仕することもやっぱり大事なんじゃないか、という会長の考えに私も共感しました。そして立案したのが「子どもたちと育む食育推進事業」です。

臼井橋の近くに2か所、それぞれ一反の耕作放棄地があつて、所有者から畑を使つてほしいという依頼もいただき、じゃあここを「白根ロータリークラブ子ども農園」って名付けて、野菜を作



上段 インタビューに答えてくれた小林 諒（こばやし まこと）さん 下段は大矢元会長と収穫体験の準備

て子どもたちから収穫体験や食べ物の勉強してもらおうか、ということになりました。

実りを活用していただく

作年は比較的作りやすくて、収穫が楽しい春作のジャガイモと秋作のサツマイモを育てて、子どもたちに収穫体験をしてもらいました。参加したご家族が両手に袋をぶら下げてお帰りになるほどジャガイモは大豊作でした。それでもまだたくさんあつたので南区社協の生活支援の事業に寄付して活用していただきました。

今年も7月からロータリーの社会奉仕活動担当として、引き続き「子ども農園」に関わっています。今年は一反まるまるジャガイモではなくて、2割ほどキャベツ、ブロッコリー、ミニトマト、ピーマン、茄子を植えたんだけど、ちよつと失敗でした。茄子みたいな成りものは日々とらないといけないので、一斉に収穫する収穫体験には向きませんでした。収穫物はその都度、フードドライブ活動をしている学習塾や高齢者施設、障がい児者支援のボランティア団体にお届けし、喜んでいただきました。

今年の収穫体験は7月上旬に実施して、小林地区、臼井地区、白根地区の小学校に呼びかけ、おかげさまで15家族53人の参加をいただきました。炎天下での収穫だったので熱中症に気を付けながら、日頃は畑に出る機会も少なくなってきた高齢の会員も、子どもの前ではいいとこ見せようと張り切つて活動しました（笑）。

子育て安心さえ隊3739

主に南区で開催する子育て応援イベントの企画・開催を行うほか、白根児童センターが開催する行事のお手伝いや花壇の花植え、整備を行っています。小さい子からエネルギーをもらつて楽しく活動しています。最近パパの参加度が増してきたようで嬉しいです。



活動日：随時 定例会：毎月1回程度
活動場所：白根児童センターほか



活動日：毎月第2日曜日 午後1時～3時
活動場所：白根学習館



子ども農園で収穫体験

ほとんど手
伝いをしな
かった私で
すが、実家が
農家で両親
が農作業す
る姿を見て
きたし、作物
を育てるの
は嫌いじゃ
ないんです
よね。作物
が良くでき
て人に差し

上げて喜んでもらえるのが活動する原動力です。

若いころは趣味の山登りによく行ったもので
すが、それもなくなつて家にいると、いま自分
ができることは何だろうって考えるようになって
きたんですね。本当はもつとお金を稼げること
をした方がいいのかもしれない(笑)なんて思い
ながらも、コミュニティ協議会とか民生委員とか
ボランティア活動に邁進しています。

子ども食堂を検討中！

以前、県の消費者協会で会報の編集委員とし
て県内の子どもの食堂をいくつか取材をさせても
らったことがあります。取材したなかで一番感
動したのが新発田のフードバンクでした。大きめ
の一軒家を無償で借りて、経済的に苦しい家庭

に食料品や生活用品の支援をしたり、訪問型病
児保育や無料の寺子屋を運営するなど、すばら
しい活動をしていて感動しました

ロータリーでも子ども食堂の開催を検討し
ていて、今準備を進めているところです。財源の
支援をはじめ人的支援も併せて一緒にやってい
きたいと思っています。「子ども農場」で収穫した
食材も提供できるし、ジャガイモパーティーとか
できれば楽しいですよ。

我々も一緒に育っていききたい

我々はプロじゃないので、去年はこういう作物
を作ったけど失敗だった。じゃあ今年はこうして
みようとか。少人数だけど子どもたちに、茄子や
トマトが成っているところを見てもらえたのはと
ても良かったですし、採って食べてみる体験もでき
た。そんなふうに毎年学習していくんですよ。
それこそ親と子どもが一緒に育っていききたい
に、我々も一緒に育っていききたいと思っています。

白根ロータリークラブ



子ども農園 開催日：不定期
参加費：無料
場所：白根ロータリークラブ子ども農園
連絡先：080-5559-5655(小林)

【子育て支援 SOS】 ※局番なしは 025

- 病児・一時預かり 要事前登録**
新潟市ファミリーサポートセンター 248-7178
みなみつくる(白根総合病院) 378-0755
- 相談**
【電話】こころのレスキュー隊
大人 288-1752 子ども 0120-175-255
【電話】新潟市助産師会 助産師による
電話相談 244-8885
【電話・来所】ひとり親家庭等自立支援
相談(南区) 372-6351
【電話・来所】新潟県弁護士会 こどもの
なやみごと相談 222-5533
【SNS】親子のための相談
LINE



活動日時・活動場所はお問合せ下さい。
TEL 080-2074-0803 フードバンクにゅめ南



ひとり親家庭の食支援として、不定期に「南区
おやこ食堂」を開催しています。フレンチのシ
ェフにレシピ・調理を担当していただき、いつ
ものご飯とはひと味違うメニューを楽しんで
頂いています。相席になったママ同士の交流も
楽しい時間になっています。

南区おやこ食堂

ママが笑えば元気に育つ

OHANA(オナハ)を立ち上げたのは今年の3月です。19年間、保育園や子ども園で保育士として働いてきました。最初の頃は子どもの成長と発達を促しながら一緒に遊ぶという関わり方でしたが、自分が結婚して出産して子どもを育てていくなかで、ママの大変さが身に染みしました。子どもを見ながら夕飯を作って、食べさせて、お風呂に入れて、洗濯して、寝かしつけて、夜中は起こされるし、みたいな。そんなことは保育士としてはやってこなかったことだから。

園にいた頃は、ママたちが不安にならないように、傷つけないようにと思うあまり、話が回りくどくなって、結局何が伝えたいのかわからなくなってしまう。ママに言葉を合わせて、大丈夫ですよ、なんて言っても、心無いというか、本当に寄り添うことができていいのか、疑問でした。



インタビューに答えてくれた日浦優子
(ひうら ゆうこ) さん

そして思い至ったのが、子育て支援というのは子どもの支援というより、親の支援、ママを支えることなんじゃないか。ママが笑っていれば、たいいてい子どもは元気に健やかに育つだろう、と思うようになりました。

ひとつひとつも解いていく

サロンに来てくれているママたちは、寝かせる成功例とか食べさせる成功例とか、SNSでよく見ているみたいです。そんなに気にしなくてもと思う。転んでケガしたって生きてりゃいいじゃん、そのうちケガは治るって、みたいな。完璧な子育てを目指さなかったんで、私は自分を苦しめなくて済んだのかもしれない。4人育てましたが、子育てには正解がないんだと思う。当たり前だけどみんな違う。上の子に通じたことが下の子に通じなかったりね。

OHANAでは自分の子育ての経験や保育士として学んだ知識を活かしながら、自分にとっては大丈夫と思えることでも、今困っているママと一緒に、どうすればいいかをひとつひとつも解いていけたらいいなって思っています。

楽しく食べよう！

ママの中には子育てに追われて夕ご飯も食べないで寝てしまう、お菓子ですませるという方も少なくないようです。寝不足だから食べるより寝るのが先、ましてや自分のために食材を買って料理してなんて考えられない、という話を聞くと

ママの栄養面がちょっと心配になるんですよ。お弁当や惣菜、レトルト食品ばかりだと栄養が偏るし。サプリメントもあるけれど、人の身体は食べて物でできているから、自分の口から食品を摂取するのは大事ですよ。

家でお昼ご飯を食べるにしても、テレビやスマホの画面見ながらと言う。そこに社会はないなと思うんです。なのでOHANAでは人と人とのつながりについて、みんなでお昼ご飯を持ち寄って楽しく食べる。たまには真だくさんのお味噌汁とごはんを用意してランチ会とか、ちょっとおしゃれな出前のデリを取ったり。

そんなことをしていたら、ママたちに面倒くさくない夕飯のメニューを所望されて、今インスタで日浦家の夕食を毎日アップしています(笑)。調理実習もやっただですよ、「おんがのクッキング」。ビビンバを作ったんですが、これ一品知っているのと夕飯が相当楽になるって、好評です。



今日のメニューは夏野菜のラタトゥイユ！



OHANAの使い方

朝9時30分から昼の2時30分まで通して開けているので、その時間の中でフッと来てお話しして、好きな時間に帰るみたいな感じで利用している人が多いかな。上の子が帰ってくる時間とかそれぞれの都合に合わせて。

子連れで、ランチができて、時間の制約がなくて、子どもが寝たらタオル掛けて

寝かせられる、特別お金がかからない場所って、ほんとないんですね。

最近は開催時間の中でママたちがやりたいことを順番にやっている感じです。ボードゲームしたり、トランプしたり、ヨガをしたり。好評だったのは耳つぼジュエリーですね。耳のツボに金属粒を貼って健康と美容を促進するらしいのですが、見た目はかわいいピアスみたいで。おしゃれ関係は、なかなか子連れでそういうところに行けないから、楽しいんだなあうって納得したりして。

最近リクエストがあつたのが、子どもの応急手当で異物除去の方法。ちよとサロンに来てママの中にナースの方がいることを思い出し、さっそく講師をお願いしました。

ママと一緒に

保育園で子どもを預かる期間は、今は6年くらいが一番多いでしょうか。生涯にわたる人格の基礎が作られると言われている乳幼児期の0才から6才の間に1500日以上、一緒にいる保育士って、すごく責任のある仕事なんじゃないかと思えます。小学校に入ってしまうえば、保育士はその子を見る機会はなくなってしまふんですが、親子は違う。

親子は子どもが成人したって、自分が70才で子ども50才になっても、どちらかが亡くなるまでは親子じゃないですか。親が子どもに関わっていくベースは赤ちゃんの時から始まっているから、親子と一緒に生きていくときの関わり方の

良き方法を見つけるために、ママと面と向かってしゃべりながら実践を繰り返してみたい。そして子育てに正解はないけど、その子に合った声のかけ方とか、その子に合った伝え方が必ずあると思うから、ママがそれを見つけ出すお手伝いをしていきたいと思っています。

子育てサロンOHANA



開催日: 毎月主に第2・4水曜日

参加費: 無料 場所: 白根学習館

連絡先:

QRコードにアクセス



南区の子育て支援ボランティア団体特集、いかがでしたでしょうか？この冊子は子育て真っ最中のママ・パパには手渡りにくいかもしれませんが、「この人には必要かな」と思ったら手渡してください。また子育て支援のボランティアにぴったりの方や興味がある方がいたら差し上げてください。よろしく願いいたします。



社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会 南区社会福祉協議会
南区ボランティア・市民活動センター

〒950-1214 新潟市南区上下諏訪木 817-1

TEL: 025-373-3223 FAX: 025-373-6125 ◆開所時間 8:30~17:15 月-金

◆ボランティア活動についてのご相談、ご意見などありましたら、お気軽にお問い合わせください

